

第113話 青木家の医師たち

中山町歴史散策

青木家の遠祖は、伊勢桑名藩の出身で、大根田七右衛門の次男であった青木由政定章といわれ、縁あって長崎村に居を構え医業を営んだと伝えられています。

新貝家六代長亀清康(自仙)は、青木由政定章の養子となり、元禄11(1698)年5月に亡くなっていますが、子の長伯康清が青木家を継いでいます。

三代長伯康清は、元禄14年の生まれで、江戸小白川町の官医山田立長法眼の門下となり、医師にすぐれた医者でしたが、明和6年に69歳で亡くなっています。

四代長伯良栄は、元文元(1736)年の生まれで佐倉藩主堀田侯の典医上田文庵に入門し、五代長伯松栄も天明3(1783)年18歳で江戸に上り、官医山田氏の門下生となっています。

次いで、七代長伯文栄は、天保5(1834)年の生まれで、明治期に入っても医療を続けながら、漢字、書道を

村の門弟に教え、明治22年7月に56歳で亡くなっています。

七代長伯文栄の長男文悦は、安政4年に生まれ、米沢藩の藩医であった西置賜郡荒砥の宮沢昌山の門で修業し、その後明治時代の軍政の施行に伴い、海軍の東京病院の医師となりましたが、結婚後間もなく亡くなっています。

このため、三男の松栄が青木家を継ぎましたが、松栄は医師の道を選ばず教師となり、30年にわたって長崎小学校の校長を務めた教育者でした。

また、四男の永佐久は分家して医師となり、昭和40年代まで地域医療の先導役となっています。

【用語の説明】

官医：江戸時代に幕府に仕えた医者のこと。

典医：江戸時代に將軍家や大名に仕えた医者のこと。

※参考 中山町史 中巻 第9章第4節 疫病の流行

1万7,000人が大興奮!



7月5日、庄内銀行・日新製薬スタジアムやまがた(県野球場)で、プロ野球パ・リーグ公式戦「東北楽天ゴールデンイーグルス対北海道日本ハムファイターズ」が開催されました。

町では、東北楽天ゴールデンイーグルス中山町支援本部を組織し、各団体と連携し、町を挙げて楽天イーグルスを応援しています。



試合開始前にオープニングセレモニーが行われ、支援本部長の佐藤町長が、両チームの選手に町内産のさくらんぼ「紅秀峰」を贈呈し、山形県での試合開催を歓迎しました。

この日は、平日のナイターにも関わらず、スタジアムには約1万7,000人の野球ファンが駆けつけ、プロのプレーに目を輝かせていました。



右から梨田監督(東北楽天ゴールデンイーグルス)、佐藤町長



両チームへ町内産の「紅秀峰」を贈呈

町議会臨時会

平成28年度第4回町議会臨時会が7月5日に開催され、次の内容について審議されました。

契約の締結

- ・平成28年度中山町立中山中学校既存校舎解体工事請負契約の締結
- ・平成28年度中山町立長崎小学校屋根等改修および空調設備改修工事請負契約の締結

**第11回 夏祭り**

日時 **8月28日(日)**  
午後2時～8時

場所 ひまわり温泉ゆ・ら・ら前交流広場

イベント内容 カラオケ大会、子どもアユつかみ取り  
すもも種飛ばし競争、ほかイベント多数

**枚数限定! 前売り券 1,000円**  
お早目に! (飲料・おつまみ等2枚交換券付)

●8月26日の風呂の日は!  
大広間イベント午後1時～

- ・中山昔語りの会
- ・志乃舞会
- ・カフラオハワイ山形校

入浴のお客様 入場無料!

8月の第3月曜日は、休まず営業します

ひまわり温泉 **ゆ・ら・ら** 会員募集中!  
QRコードからアクセス!

株式会社 中山町振興公社 ☎023-662-5780